

【R2年頭訓示】

H2-1-14
矢野弘典

新しい未来に挑戦する

～中期計画の作成～

皆さん、こんにちは。明けましてお目出度うございます。本年も宜しくお祈りいたします。力を合わせて、良い1年にしましょう。

長いお正月となりましたが、皆さまはご家族と共に英気を養われたことでしょう。お陰様で私もゆっくりと休養し、新しい年への思いを新たにしました。

年頭のご挨拶が遅れたのは、8日から12日までインドネシアに出張していたためです。大学や大学院を卒業する高度人材の採用のため、県内の10社の企業の方々とともに、バンドンに行き参りました。お陰様で500人を超える応募者があり、現地で2名の内定、今後15名の内定を出す予定です。昨年10月のモンゴルの時と同じですが、静岡県ひいては日本で働きたいと希望する若者が、これほど多く居るのかと、改めて認識を深めることができました。世界に対する日本や静岡県の果たす役割は大きいと、肌で感じた次第です。

私は今回、知事の名代として静岡県と友好関係にある西ジャワ州のリドワン・カミル知事を訪問し挨拶を交わし、今後の交流の深化を確認しました。また同時に「ふじのくにづくり支援センター」の理事長として、県下の企業の人材採用のお手伝いをするために出かけてきました。

私たちの団体の名称は「ふじのくにづくり支援センター」ですが、「ふじのくにづくり」という意味を、改めて考えてみましょう。

私はセンターの役割を、土地・道路・住宅という公社が本来担っているハードインフラの整備とその管理に留める必要はないと思っています。すでにセンターとしては、発注者支援、地籍調査、高齢者の居場所づくりなど、各公社ではできないソフトサービス分野に進出していますが、それに加えて人材の採用育成などの新分野におけるソフトインフラづくりの面でも、これから県のために貢献していきたいと思っております。わたしは「地域自立のための人づくり学校づくり実践委員会」の委員長を数年続けていますが、それもまた「ふじのくにづくり」の一環であると考えています。

前置きが長くなりましたが、先ずはこの1年間を振り返って見たいと思います。センターの十大ニュースは、すでにお手元に届いていると思いますが、改めてご覧下さい。お手元のプリントのとおりです。
(説明中、○印は理事長所感)

《十大ニュース》

1、 将来へ向けての事業拡大

- ・ インフラ技術支援担当では、発注者支援業務を10機関から20件受注。今後も拡大方向。
- ・ 土地公社では、先行取得事業で新たに東駿河湾環状道路や沼川広域改修などを受託の見込み。
- ・ 住宅公社では、令和2年度から3市から市営住宅管理を受託の予定。

2、 執行体制の整備

- ・ 令和元年度において、道路公社で22年ぶり、住宅公社は24年ぶりに正規職員を採用。
- ・ 令和2年度においても、住宅公社で正規職員の採用決定。
- ・ 発注者支援業務の拡充に伴いセンター技術専門員を増員。
土地公社でも用地取得事務経験を有する若手嘱託員を採用。

3、 健全経営の推進

- ・ 平成30年度決算で、土地公社は2年ぶりに黒字計上。

- ・ 住宅公社は、16期連続の経常黒字を計上。
- 4, 計画的な事業推進
- ・ 「沼津市重須地区住宅の高台移転事業」で、宅地造成に係る市への開発行為申請事務を実施。
 - 大震災以後、住宅の高台移転構想を実現した全国第1号。全国のモデルとして是非成功させたい。
 - ・ 伊豆中央道江間改築事業および伊豆S L十国橋架替工事を着実に推進。五輪前に開通。
 - ・ 新掛塚橋（愛称：遠州大橋）の無料開放。
- 5, 従来 of 取組拡大
- ・ 伊豆S Lにおいて、他の事業者と連携して料金割引の拡大や魅力体験見学会を実施。
 - ・ 小山町において、町営住宅初の高齢者支援事業「訪問サポートサービス」を実施。
- 6, 社会経済情勢への対応
- ・ 消費税引上げに伴い、道路公社では通行料金、高架下駐車場の賃料改定。住宅公社でも富厚里簡易水道および足久保下水道の料金改定。
 - ・ 土地公社では「所有者不明土地法」関連制度の活用促進のため、新たに国が設立した連絡協議会に準会員として参加。
- 7, 戦略的な広報展開
- ・ 「センターだより」の毎月発行など、戦略広報ガイドラインに基づき戦略広報を展開。
 - ・ 地籍調査の促進について、商工会議所・経営者協会・静岡新聞など関係先と連携した行政要望や広報活動を展開。
 - ・ 伊豆S L料金割引チラシや通行券裏面への広告掲載やクーポン券添付で、利用者の利便性向上と経費節減に寄与。
 - ・ 県営住宅敷地内への案内看板設置、募集案内パンフレットのリニューアルなど、入居率向上対策を実施。
- 8, リスク発生への対応等
- ・ 台風15、19号による伊豆S L崩土対策、道路法面の巨石撤去までの41日間にわたる安全確保。県道熱海箱根峠線

の道路損傷の影響で、伊豆S Lの大幅な交通量減。

- ・ 県営小山第2団地では、台風19号による鮎沢川決壊により、3・4号棟全21所帯が同団地空住戸へ仮移転。
 - ・ 富厚里簡易水道の自主定期点検で、鉛とその化合物を検出。鉛管の迅速な取替工事が全戸完了。
- 迅速な誠意あるリスク対応は社会的信用の源で、組織存続のための大前提。一時の損得は取り返せるが、一旦失った信用を取り戻すことは容易ではない。問題の発見が外部からの指摘ではなく、自主定期点検であったことは良かった。ただし、私への報告が発見後1週間後であったことは問題。悪い話は一刻も早く報告するようにして頂きたい。
- ・ 静岡中央ビルの耐震化に向け、ビル入居者による検討開始。

9. 業務効率化・事務改善

- ・ NHK放送受信料に事業所割引きの適用、老朽化エアコンの更新で、経費節減と執務環境の整備。
- ・ 自動翻訳機（ポケトーク）を導入し、多言語対応での窓口業務や外国人サポートサービスを推進。
- ・ 地籍調査事業の関係書類保管について、紙媒体からCDRなど電子媒体活用に変換、事務省力化を実現。

10. 総務・管理等

- ・ 無期雇用嘱託員制度の運用、働き方改革に対応した労働環境の整備検討。

十大ニュースは今回で2回目となりますが、改めて読み直してみると、新しい事業の展開や制度の改善が実り始めていることに手応えを感じます。皆さまのご尽力の賜物であり、心から感謝申し上げます。現場を重んずるという点で、私が特に感銘を受けたのは、一人一挑戦や業務功績表彰等を決める際に、各部門から上がってきた案件の内容でした。十大ニュースにも入っておりますが、それらがことごとく現場に密着して問題点を発見し、それを放置しないで改善に結びつけたものであったことです。しかも、年々レベルが上がっています。これらは、「現場主義」すなわち、「現場に立って考え行動する」

ことの成果に他なりません。身の回りから改善を始めることは、一見しては地味ですが、確実にセンターや各公社の仕事の質を高め、長い目で見ればお客さまからの信用を得る一番の元になるものと、私は信じております。「百里の道も一歩から」です。

さて、今年の心構えとしては、「新しい未来に挑戦する」を掲げたいと思います。皆様のご尽力によりまして新しい事業の芽が吹き出してきましたが、今後の組織のあり方を含めて、言い換えればセンターや公社の将来について、中長期的にある程度の見通しをもって臨む必要があります。

そこをお願いしたいことは、これまでの基本計画などに加え、新たに3年間の「中期計画」を作成することです。3月末までの3ヶ月間に纏めたいと思います。令和2年度はその初年度に位置づけ、年度予算と同じにするのです。その場合に留意しなければならない、三つの原則があります。これまでに何度も申し上げてきた「経営の原点」であります。この原点は不動のものとした上で、今後の経営環境の変化にいかに対応していくか、課題の優先順位を定め、すぐには実現しないことはどういう手順で取り組めば良いかを考え、これを文書化し「見える化」するのです。来年の1月になれば、この令和2年度を振り返り、中期計画を見直し（ローリング）、令和3年度を初年度とする新たな3年計画を立て、それを年々同じように見直していくのです。年々書き直すことのない計画は、経営計画とは言えません。単なる指針に過ぎないのです。ぜひ生きた中期計画を作成したいと思います。

詳しい説明は省略しますが、経営の原点とは次の三点です。

第一は、経営理念である「お客様と共に歩む」を堅持すること。

第二は、「健全経営」を堅持すること。すなわち、

- (1) 決算の健全性：損益計算書P L
- (2) 資産の健全性：貸借対照表B S
- (3) 信用の健全性：数値化し難いし最も大切な経営の基本

第三は、「センター一体化」を促進すること。

変わらない原則の上に、環境の変化に半歩でも先んじて、柔軟に変わる事業計画を立てていきたいと考えています。長い将来のことは分からないことが多いのも事実ですが、分かろうとする努力を怠って成りゆきに任せるのでは、団体にも事業にも将来はありません。早速にも中期計画検討委員会を立ち上げ、皆さんの意見を織り込んだ計画を作ろうではありませんか。センターも公社も、これからの人たちが担っていかなければなりません。将来をどうするかは、自分たちで考えなければなりません。可能性も、リスクも両方ともです。その気概があれば、必ずや未来は拓けていくものと確信しています。

さて、憲政の神様と唱われた尾崎弴堂翁、この人はワシントンのポトマック河畔に桜並木を寄贈した政治家として有名ですが、この方が次の言葉を残しています。永田町の憲政会館にある銅像の、台座に刻まれた名言であります。

人生の表舞台は、常に将来にあり

終わりに当たりまして、一言申し上げます。ご家族共々、身心の健康に留意して下さい。そして、悔いのない一年といたしましょう。

明るく、元気で、仲よく、厳しく！

以上